

TAIPEI REPORT

FEB 2012

CONTENTS

台北における文化複合施設について

Cultural Parks in Taipei

Introduction

華山1914文化創意園區

松山文化創意園區

信義公民會館 -四四南村



Introduction

台北では近年、歴史的建造物を文化複合施設として蘇らせる事例が増えてきている。もともと中華民国台湾としての歴史は 70 年に満たない台湾では日本統治時代やさらに歴史を遡った清朝時代の建物などは台湾自体の歴史的財産として大切に保存されてきた。そして近年はそれら建造物が現代のニーズに合った方法で再生を果たしている。特筆すべきはどの敷地も基本的には市政府所有ではあるものの、マネジメントは物件により様々な手法が取られ、美術展やテナントはどれも現在の人々のニーズをうまく反映した魅力的な空間になっているところだ。さらに建物自体にそれぞれの歴史や物語があることから、新しい美術館やモールなどでは真似できない唯一無二の存在性が生まれている。これら文化複合施設の開発自体が台北の新しい文化形態のひとつとも言えるだろう。今回はそんな台北の歴史的建造物を再利用した文化複合施設についてご紹介する。



[Project details]

1. Developer: 台北市政府、中華民國文化建設委員會
2. Management: 台灣文創發展公司
3. Type of Business: 文化藝術複合施設
4. Open date: 2002.5
5. Location: 中正區八德路一段 1 號
6. Website: <http://web.huashan1914.com/index.php>

[Map]



[Overview]

華山文化創意園區はもともと日本統治時代の 1914 年、芳釀株式会社という日本の民間企業の酒造工場として設立された。その後 1922 年に日本政府による酒・たばこ専売制度実施によりこの工場も台湾総統府に付属する専売局台北酒工場に。1949 年以降は中華民国政府により業務が引き継がれ、工場が 1987 年に現在の新北市林口に移転するまでのおよそ 73 年間酒造工場として稼動していたが、工場閉鎖後 10 年ほどは廃墟と化していた。きっかけは 1997 年、市内の劇団「金枝演社」がここでパフォーマンスをしたところ不法占拠であると訴えられたことにより芸術関係者らが立ち上がりこの地を芸術、文化の発信地としようという動きが高まり、現在の華山文創園區へのオープンへと発展していった。華山文創園區の開発は ROT 方式で進められ、基本的に建物は設立当時のまま内装のみを変え再利用されている。芸術や文化の発信とともに、民間の工芸店や話題性のあるレストランなどの誘致により家族連れやカップルなどを中心に人気スポットとなった。華山文化創意園區の事例は台北市内の歴史的遺産を再利用した文化複合施設として成功した先駆的な存在となっている。



華山文化創意園區 正面





正面の建物を利用しているヨガスタジオ&ショップ







エントランス近くの建物を利用しているカフェ



ギャラリー



比較的有名なイタリアンのチェーンレストラン Alleycat's も入店



古い建物とグリーンが多いテラス席が雰囲気マッチしている。



アートなどのイベントが開催されるメインの建物



取材時のイベントはゲゲゲの鬼太郎のテーマパーク



コンサートなどが行われる音楽館





小道を利用した雰囲気のあるイタリアンレストラン



同上 このレストランも市内でチェーン展開をしている企業の系列店舗



故宮博物院が手がけるデジタル美術展







小さな小屋を利用したカフェ



店内 このカフェは若手有名作詞家がプロデュースしていることでも有名





ショップが並ぶ小道 主にデザイングッズを扱うショップが多い







台湾料理の老舗のひとつ「青葉」が手がけるビュッフェ式レストラン



レストラン エントラン

[Project details]

1. Developer: 台北市政府
2. Management: 台北市文化基金會
3. Type of Business: 文化藝術複合施設
4. Open date: 2010
5. Location: 台北市信義區光復南路 133 號
6. Website: <http://www.songshanculturalpark.org/index.php>

[Map]



[Overview]

松山文化創意園區は日本統治時代の 1937 年、臺灣總督府專賣局松山菸草(たばこ)工場として設立された。当時日本政府は本工場設立のために官員を欧米へ 2 年間派遣したと言われ、最終的に日本の建築スタイルに西洋のアイディアを取り入れた建築となった。またこの工場には「工業村」という工員の労働環境や福利厚生を重視するという当時としては画期的な概念が取り入れられており、敷地内には工員の憩いの場となるような西洋式庭園や宿舍・浴場・更衣室・医務室・薬局・手術室・購買部・育児室・托児所などの施設をもうけていた。

その後工場は 1998 年に閉鎖されたが、2001 年には台北市政府により史跡に認定される。敷地が広大でありながら国父紀念館のすぐ向かいというかなりの好立地であるため、台北市政府はこの歴史的遺跡をどのように再生させるか慎重に検討を進めてきた。結果、一部は松山文化創意園區として史跡を残しながらアートや文化の発信地に、またもう一部にはおよそ 4 万人を収容できる「台北大巨蛋(アリーナ)」と商業施設や映画館、またホテルの入ったオフィスビルを建設することが決まった。今回ご紹介するのは松山文化創意園區の部分のみ。前述した台北アリーナと商業エリアは 2014 年竣工予定。



メイン会場のひとつ

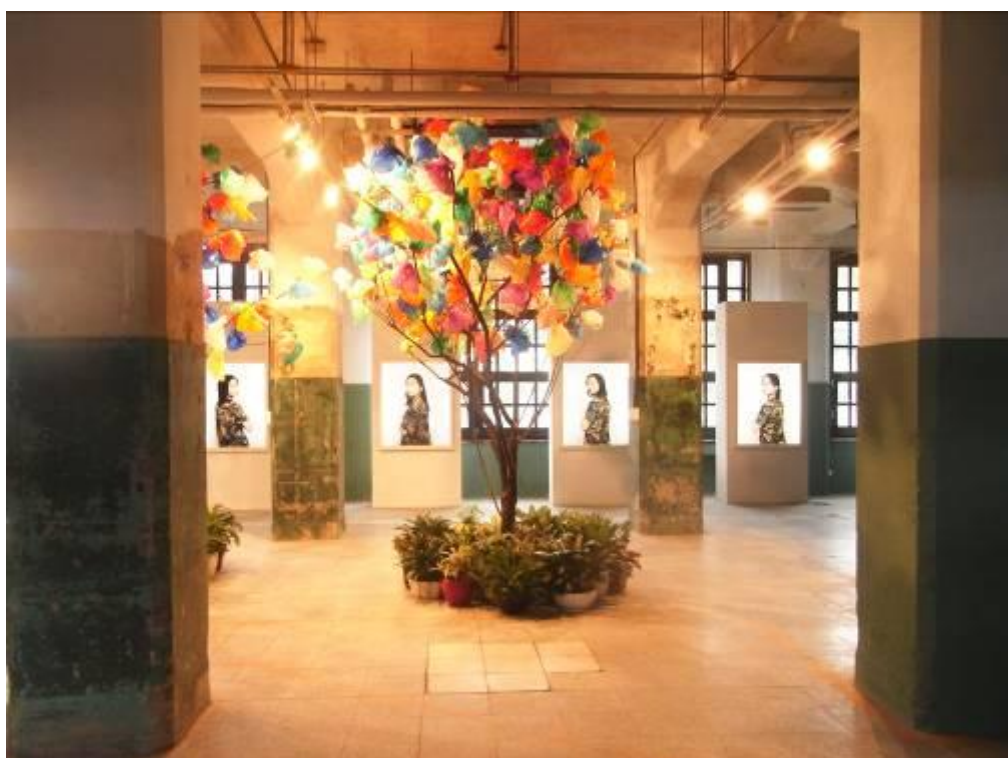


1937 年当時より保存されてきた趣ある建物





取材時に開催されていた展示「北京 798 印象」







野外の一部を利用して開催されていた子ども向けの恐竜テーマパーク





台湾人デザイナーによる作品を展示している TAIWAN DESIGN MUSEUM





展示施設内のカフェスペース





噴水とグリーンが美しい西洋式中庭





レストランとショップが入店する建物 テラス席写真右手側には池が広がる



[Project details]

1. Developer: 台北市政府
2. Management: 台北市政府
3. Type of Business: 文化芸術複合施設
4. Open date: 2010
5. Location: 台北市信義區松勤街 50 號
6. Website: <http://www.xydo.taipei.gov.tw/ct.asp?mp=124091&xItem=23671&CtNode=37744>

[Map]



[Overview]

台湾には「眷村」と呼ばれる 1949 年以降中国から来た国民党軍の関係者が住むコミュニティが多々存在する。その多くは都市開発などにより消滅してしましたが、わずかに残る眷村のひとつを歴史文化の発信施設としてよみがえらせたのがこの信義公民會館(四四南村)である。この四四南村は Taipei101 のすぐ近くに位置し、近辺は台北の中でも最も開発が進んでおり、ここも 1999 年には都市開発の一部により住民らは立ち退きを免れない状況になった。ところがこの眷村という歴史と文化を守ろうという住民の活動のもと、「信義公民館及び文化公園」という名称に改められ、2003 年に眷村の建物を守りつつ新しく台北の文化を発信する複合施設としての再生を果たした。現在はおしゃれなカフェやショップ、また週末にはマーケットなども開催され若年層を中心に注目のスポットとなっている。



エントランスは公園として一般に公開されている





「眷村」は日本でいう長屋のようにひとつの建物の中を区切って数世帯が居住する構

造



現在はこれら建物の中に「眷村」の歴史を紹介する展示スペース、カフェ等がある



四四南村の歴史を紹介するスペース







週末には中庭でマーケットも開催され多くの人で賑わう





マーケットと共にライブイベントなども開催される



中庭を挟んだ建物内にはカフェやショップが入る



ショップエントランス





アイスクリームショップ



皮小物店



オーガニックコスメや食品などが並ぶショップ







カフェ側から見た中庭 左手奥に見えるのは台北101



